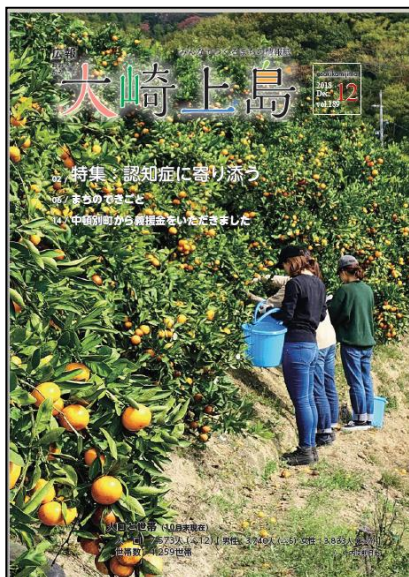


最優秀賞

大崎上島町 『広報 大崎上島』 (平成 30 年 12 月号)



■発行部数(年間発行回数): 4,300 部(12 回)

■担当課: 住民課 住民・人権広報係

■連絡先: 0846(65)3113

【担当者より】

本町は高齢化率が約45%と非常に高く、少子高齢化が深刻な問題となっています。さらに高齢化が進行すると、今後町では様々な問題が生じると予想されています。

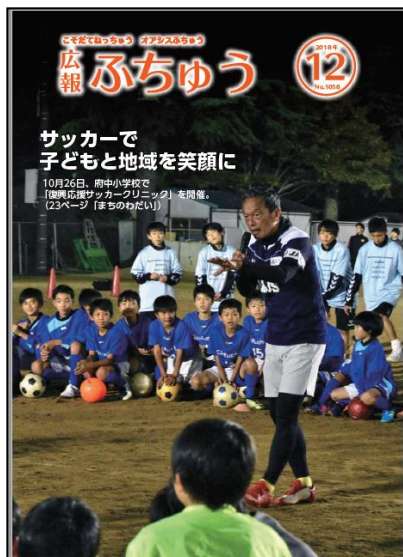
今回は高齢者の数に比例して増加するといわれている認知症について取り上げました。主な狙いとしては、読者に認知症は他人事ではないと意識してもらうことと、認知症に対する正しい知識を持ってもらうこと。しかし、「認知症」をテーマとすると、固いイメージが拭えないと思い、町内在住の認知症患者を家族に持つ方の生の声を最初に紹介するなど、感情移入できるような、入りやすい構成になるよう気をつけました。

＝講 評＝

- 高齢化が進むエリアでの認知症特集は、需要もあり、まさに広報誌で情報を出す意義があると思う。固い内容になりがちなテーマだが、親しみやすく紹介されている。連絡先や予防法、チェック欄など、実際に行動を起こせる情報も詰まっている。
- 地域住民によりそった企画。広報誌制作に対する誠意、使命感が感じられる。
- 余白の使い方がよい。すっきりしていてじっくり読みやすい。
- 専門用語を羅列しがちなテーマのなかで、分かりやすさを意識した言葉の選び方をしており、読み易く感じた。住民に対する細やかな姿勢が感じられる文章。
- 色分けやデザイン処理で、文字が多く見えすぎないような工夫がされていた。

優秀賞

府中町 『広報 ふちゅう』 (平成 30 年 12 月号)



■発行部数(年間発行回数): 22,550 部(12 回)

■担当課: 総務課

■連絡先: 082(286)3127

【担当者より】

12月は「障害者週間」に定められていることから、障害のある方々に関する特集を組んでいます。今年度は、庁内に2か所ある障害者支援施設を取り上げました。障害のある方に対する偏見や心理的な垣根を無くしていきたいという趣旨で、より身近に感じてもらえるよう、いずれの施設にもある、カフェの紹介を中心に、読者が「行ってみたい」と関心が持てるような記事を目指しました。

＝講 評＝

- 支援施設自体の紹介とあわせて、実際に市民の人たちが行動を起こせるような内容になっているのが良い。
- 福祉施設に対して、明るい印象を持ったり、興味を持ったりするきっかけになる。
- 「カフェ」を切り口に、障害者との共生社会の実現を目指すという視点に独自性が感じられる。
- 取材がよく出来ており、その施設で働く人たちの想いや施設自体の紹介がしっかりと紹介されている。
- 写真のレイアウト、点数ともにバランスがよい。二色刷でもわかりやすく読みやすいレイアウトになっている。